

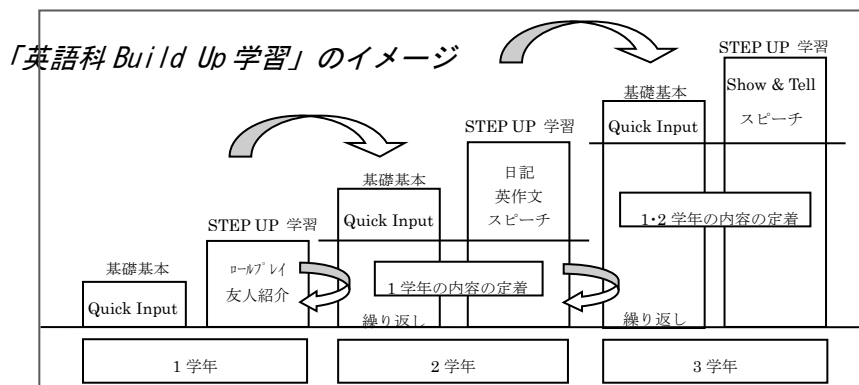
英語科シラバス（第3学年）

1 基礎的・基本的な知識及び技能の習得をめざして

- 繰り返し学習である「Quick Input 活動」では基本文の定着を目指します。
- 単語などの小テストや、音読テストの実施による基礎・基本の徹底を目指します。

2 思考力・判断力・表現力その他の能力の育成をめざして

- 「Quick Input 活動」や「My project」などで、さらに実際に活用させる場面を作り応用力を高めていく「Step Up 学習」へと活動を広げていきます。
- 「英語でスピーチしよう」などの課題に取り組み、Quick Input 活動で定型文やたくさんの表現を学び、その表現を覚えて語句を置き換えることで、自分の意見や考え、経験を文章にしていくアウトプット活動につなげることで英語で表現することに慣れていきます。



3 学習意欲の向上や学習習慣の確立をめざして

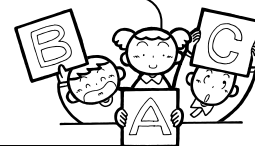
- 「新授業六束」をしっかり守り、授業に臨む姿勢を育成します。
- ノートやワーク、Quick Input 等を活用し、家庭学習を習慣化できるようにします。
- 授業で習った内容を定着させるため、毎時間宿題を提示します。

4 3年生の目標

1・2年生で学んだ英語の基礎をいまえ、より多くの語句や文法項目を身に付ける。特に、教科書本文の意味がわかる（読むこと）、授業内の指示が英語で聞ける（聞くこと）、みんなの前で英文を発表する（話すこと）、自分の経験などを英文にできる（書くこと）、を目標とします。

5 使用教材と持ち物

- 教科書
- ノート2冊（授業用、自主学習用）
- ワーク
- ファイル1冊（授業プリント用）



6 授業について

- 休み時間のうちに授業の用意をしましょう。
- 宿題を必ず行いましょう。
- A・L・T（外国人の先生）が来た時には、積極的に会話に参加しましょう。
- 忘れ物をしたときには、授業前に先生に言いに来ましょう。
- 普通の授業でも、英語を使うことに慣れるために積極的に発言しましょう。
- 参加意欲や授業態度、単語テストや音読テストは評価に影響します。

7 英語の学習法・ポイント

- 新しくでてきた単語・連語は全てしっかり覚え、書けるようにする。
- 授業中の発音、発言は大きな声でしっかりとする。
- 授業で習った内容はワークや宿題を活用して、その日のうちに復習する。
- 定期試験までに、学習している文法項目を整理して、まとめておく。
- “Quick Input”のシートを繰り返し読んで覚え、音読できるようにする。

8 評価の観点と評価規準

観点	評価内容	評価方法
主体的に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを話したり、つなぎ言葉を使って話を続けたりしようとしている。 間違いを恐れずに積極的に言語活動に取り組める。 積極的に音読し、わからないところは辞書を活用して読もうとしている。 知っている語句や表現を使って相手に英文を書いて伝えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 会話活動 クイックへの取り組み 挙手、発言 提出物等
思考力 判断力 表現力	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや意見を話したり書いたりすることができる。 場面や状況にふさわしい表現を用いて話したり、応答したりできる。 . 	<ul style="list-style-type: none"> 定期テスト スピーチや作文 音読テスト
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 話し手の考えや意見を聞いて理解することができる。 まとまりのある英文を読んで、あらすじやその内容を理解することができる。 英語の言語構造を理解し、正しい語順と文法で身につけている。 英語を使う上で必要な英語圏の生活習慣や文化的背景について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期テスト リスニングテスト 長文読解 英単語テスト ワークシート

※評定（5段階）は、各観点の評価（ $\overset{\text{マル}}{\text{AO}}=5$ 点、 $A=4$ 点、 $B=3$ 点、 $\overset{\text{マル}}{\text{CO}}=2$ 点、 $C=1$ 点）をもとに算出します。評価と評定の関連は、下表（例）のとおりです。

各観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	評定
$\overset{\text{マル}}{\text{AO}}$ $\overset{\text{マル}}{\text{AO}}$ $\overset{\text{マル}}{\text{AO}}$	15点	$\overset{\text{マル}}{\text{AO}}$ $\overset{\text{マル}}{\text{AO}}$ A	14点			5
$\overset{\text{マル}}{\text{AO}}$ A A	13点	A A A	12点	$\overset{\text{マル}}{\text{AO}}$ B B	11点	4
A B B	10点	B B B	9点	B B $\overset{\text{マル}}{\text{CO}}$	8点	3
B $\overset{\text{マル}}{\text{CO}}$ $\overset{\text{マル}}{\text{CO}}$	7点	$\overset{\text{マル}}{\text{CO}}$ $\overset{\text{マル}}{\text{CO}}$ $\overset{\text{マル}}{\text{CO}}$	6点	$\overset{\text{マル}}{\text{CO}}$ $\overset{\text{マル}}{\text{CO}}$ C	5点	2
$\overset{\text{マル}}{\text{CO}}$ C C	4点	C C C	3点			1

9 学習内容と評価のめあて ※年間の全ての学習内容に Quick Input 活動を取り入れます。

	月	学習単元	学習内容・文法項目	学習のねらい
1 学期	4	Classroom English	<ul style="list-style-type: none"> インタビュー、自己紹介 辞書の活用 	<ul style="list-style-type: none"> 新しい級友にインタビューし、自己紹介をすることができる。 辞書を活用して積極的に英語を使うことができる。
		Program 1	<ul style="list-style-type: none"> ask 人 to ~ it is ~ to ... 主語 + be 動詞 + 形容詞 + that 	<ul style="list-style-type: none"> 他者に行動を依頼することができる。 特定の動作に対する自分の感じ方を伝えることができる 主語 + be 動詞 + 形容詞 + that の表現を正しく身につけ、運用することができる。
	5	Program 2	<ul style="list-style-type: none"> I can't remember where~ can you tell me where~? He told me (that) 	<ul style="list-style-type: none"> 間接疑問文の表現を正しく身につけ、運用することができる。 主語 + 動詞 + 人など + that の表現を正しく身につけ、運用することができる。
	6	Program 3	<ul style="list-style-type: none"> (call A + B) [A を B と呼ぶ] (make A + B) [A を B にする] 	<ul style="list-style-type: none"> 呼称を説明することができる。 ~を…(状態)にすると伝えることができる。
2 学期	7	Reading	(Reading) 戦争中の上野動物園のソウの物語	<ul style="list-style-type: none"> まとまりのある英文を読んで、内容を理解することができる。 読んだことについて要点を話して表現することができる。
		Program 4	<ul style="list-style-type: none"> 現在分詞の後置修飾 過去分詞の後置修飾 	<ul style="list-style-type: none"> 何かをしている人やものの詳しい説明をすることができる。 何かされているものの詳しい説明をすることができる。 後置修飾の用法を正しく身につけ、運用することができる。
	8	Program 5	<ul style="list-style-type: none"> 関係代名詞(主格) who 関係代名詞(主格) which 関係代名詞(主格) that 	<ul style="list-style-type: none"> 人について詳しく説明することができる。 ものや事柄について詳しく説明することができる。 関係代名詞(主格)の表現を正しく身につけ、運用することができる。
9	Program 6	<ul style="list-style-type: none"> 関係代名詞(目的格) which 関係代名詞(目的格) that 関係代名詞(目的格)の省略 	<ul style="list-style-type: none"> ものや事柄について詳しく説明することができる。 人やものについて詳しく説明することができる。 関係代名詞(目的格)の表現を正しく身につけ、運用することができる。 	
10	Program 7	<ul style="list-style-type: none"> if I were~ I wish I had 	<ul style="list-style-type: none"> 仮定法を使い、ものや事柄について詳しく説明することができる。 I wish + 主語 + 仮定法過去の表現を正しく身につけ、運用することができる。 	

	11 12	Reading	(Reading) マララさんのスピーチ	<ul style="list-style-type: none"> • まとまりのある英文を読んで、内容を理解することができる。 • 読んだことについて要点を話して表現することができる。
3 学 期	1 2 3	Special Project Further Reading	<ul style="list-style-type: none"> • 中学校の思い出を残そう (Reading) • The Ig Nobel Prize • Library Lion 	<ul style="list-style-type: none"> • まとまりのある英文を読んで、内容を理解することができる。 • 既習事項を用いて原稿を作成し、卒業に向けての思いを伝えることができる。 • 読んだことについて要点を話して表現することができる。